



令和6年6月7日

杉戸町議会議長
伊藤 美佐子 様

日本共産党
議席番号5番 北出 恵造

政務活動結果報告書

下記の通り、研修会に参加しましたので、報告いたします。

1. 研修名：よくわかる市町村財政分析基礎講座
2. 研修日：令和6年4月21日～22日の2日間
3. 研修場所：東京たま未来メッセ（東京都八王子市）
4. 研修内容：1日目
第1講 議員・市民が財政を学ぶ意義
第2講 財政収支はどうなっているか？
第3講 歳入の仕組み
2日目
第4講 歳出の仕組みを考える① 性質別歳出
第5講 歳出の仕組みを考える② 目的別歳出
第6講 指標を用いた振り返り
第7講 グループワークおよびまとめ
講師 石山雄貴氏 鳥取大学地域学部准教授
菊池 稔氏 名寄市立大学保健福祉学部 社会保育学科講師
目黒重夫氏 多摩住民自治研究所理事
5. 研修結果：財政分析を学ぶ意義として、議会活動の中で予算・決算議会は特別に重要であること。なぜなら予算・決算には住民の暮らしと仕事がかかっているから。財政問題は専門的な内容となっているので基礎が大切

であること。本講座では「習うより慣れろ」として聴く学習だけでなく、実際に分析表に書き込みや計算もする事で財政用語や財政指標の理解に近付けた。



令和6年11月20日

杉戸町議会議長
伊藤 美佐子 様

日本共産党
議席番号5番 北出 恵造

政務活動結果報告書

下記の通り、研修会に参加してきましたので報告致します。

1. 研修名 : よくわかる市町村財政分析講座
財政状況資料集から読み解くわが町の財政
 2. 研修日 : 令和6年11月17日～18日の2日間
 3. 研修場所 : 都立多摩図書館（東京都国分寺市）
 4. 研修内容 : 杉戸町の財政状況を把握するために、総務省が公表している各自治体の類似団体比較カードや財政状況資料集から杉戸町を知り今後の課題や展望を学ぶ。財政の健全化に何が大切なのか、データが示す意味を考え、正確な判断ができるようにそのポイントを学ぶ。
 - 1日目 第1講 財政を学ぶ意義
第2講 収支状況をつかむ
第3講 歳入の仕組み
 - 2日目 第4講～第5講 歳出の仕組み① 性質別歳出
歳出の仕組み② 目的別歳出
第6講 財政指標を用いた財政分析
第7講 地方公共団体財政健全化法と健全化判断比率の真意を探る
- 講師 目黒重夫氏 多摩住民自治研究所
石山雄貴氏 鳥取大学地域学部准教授
菊池 稔氏 名寄市立大学保健福祉学部講師

5. 研修結果：首長が予算を編成し議会が議決、首長が提出した決算を議会が認定する。議会活動の中でも予算・決算議会は特別に重要である。2元代表制のもと重要な役割を議会は担っている。なぜなら予算・決算には住民の暮らしと仕事がかかっているからである。本講座では「習うより慣れろ」として聴く学習だけでなく、令和4年度の杉戸町のデータを分析表に書き込み計算もすることで、令和4年度の杉戸町の財政状況の一端を知り、財政用語や財政指標の理解に近付けた。



令和7年2月5日

杉戸町議会議長
伊藤 美佐子 様

日本共産党
議席番号5番 北出 恵造

政務活動結果報告書

下記の通り、研修会に参加してきましたので報告致します。

1. 研修名 : 地方議会議員 政策セミナー
2. 研修日 : 令和7年1月27～28日の2日間
3. 研修場所 : TKP 神田ビジネスセンター
4. 主催 : 株式会社 自治体研究社
企画 : 自治体問題研究所

5. 研修内容

【1日目】

第1講義 2025年度政府予算案と地方財政対策のポイント

- ・2025年度予算をめぐる状況と課題
- ・地方財政の現状
- ・2024年度補正予算と財政民主主義の形骸化
- ・2025年度予算案のポイント
- ・2025年度地方財政対策と自治体財政の課題
- ・自治体予算に関する留意点とチェックポイント

*講師 平岡和久 (立命館大学教授)

第2講義 能登半島地震から1年—南海トラフ地震などの備え—

- ・「はじめに」では～昨年(令和6年)の1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」と9月21日に発生した「令和6年能登半島豪雨」は、その苛酷な被害と引き換えに地域防災と自治体防災の根幹にかかわる重要な課題を突き付けている。

災害1年の節目に当たって、被災と復興を総合的・複眼的・自生的に検証し、

今日の課題と明日の課題、ローカルな課題とグローバルな課題を明らかにして、減災に努めなければならない。と指摘して、以下の内容が講義された。

○地震の概要～地震の概況～地域の状況～阪神淡路大地震との比較～直接被害の概況～建物被害の概況～間接被害の状況～初動対応の概況～応急対応の概況～復興対応の概況～豪雨の概要～被害の概況～被災の要因～次の災害への備え～災害の時代～総論（災害の時代に応える）～各論1（危機管理）～各論2（減災戦略）～各論3（自律協働）～各論4（市民主体）～各論5（外部受援）

*講師 室崎益輝（神戸大学名誉教授）

【2日目】 セミナー 学校給食の無償化と有機農業・有機給食

1. 講義 学校給食の無償化をめぐる状況と基本的な考え方—いま学校給食に何が求められているのか！？

講師 朝岡幸彦（東京農工大名誉教授、白梅学園大学特任教授）

2. 報告 ①食料・農業政策における学校給食の無償化と有機農業の意義
報告者 長谷川敏郎（農民連会長）

3. 報告 ②千葉県における学校給食の無償化と地産地消の取組み

報告者 長平弘（農家・千葉県食健連事務局次長・自治体問題研究所副理事長）

4. 報告 ③遊休農地対策と「ゆうき給食」の取組み～長野県松川町

オンライン報告者 宮島公香（松川町産業観光課振興係長）

6. 研修結果

【1日目】

第1講義では、国の財政と地方財政を多面的に概括できた。2024年度政府補正予算が財政民主主義を踏み外した、軍事予算の巨大化、後年度負担や予備費及び基金の増大であることが明らかにされた。これを通年的に考えておく必要があると思った。

第2講義では、能登半島地震が内陸地震としては最大級のものであったこと、そこに9月の豪雨が襲いかかり、複合被害が発生していることなど改めて認識させられた。国を挙げての救援が求められているにもかかわらず、なぜできないのか。改めて考えさせられた。また、各自自治体において防災の強化が多面的に求められていることが実感できた。

【2日目】

学校給食の無償化と有機農業・有機給食と題してのセミナーで、上記の講義・報告を学ぶことができた。杉戸町においても学校給食を自治体活性化の要にしていく必要があると考えられる。